

汚染水対策スケジュール (1/2)

分野名	括り	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	10月							11月							12月							1月		2月		備考																																												
			27							3							10							17							24							1							8							15							下							上		中		下		
汚染水対策分野	中長期課題	建屋滞留水処理	(実績) 1, 2号機 滞留水移送装置設置 (3, 4号機 滞留水移送装置設置) (実績) ・穿孔・地下障害物撤去 ・架台・配管・ポンプ設置 現場作業	[1, 2号機] 滞留水移送装置設置							[3, 4号機] 滞留水移送装置設置																											2019年6月13日 実施計画変更申請																																		
		(実績) 1~4号機 滞留水浄化設備 ・【1~4号機】建屋滞留水浄化 運用中 現場作業	【1~4号機】建屋滞留水浄化 運用中																																																																					
		【既設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (A・B系統) (B系統応急復旧による運転11/5~12月上旬) ・処理停止 (C系統) (予定) ・循環ポンプ不具合のため処理停止 (B系統7/2~11月上旬, 12月上旬~1月中旬) ・定期点検のため処理停止 (A系統 1月中旬~3月, B系統 12月上旬~1月中旬, C系統 11/8~12/13) 現場作業	A系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)							B系 処理運転(応急復旧により運転)							B系 循環ポンプ不具合対応および定期点検のため処理停止							定期点検のため処理停止													定期点検のため処理停止 処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止 2019.10.15~10.22: 多核種除去設備(C) 移送ポンプ配管からの漏えいにより処理停止																																			
		【高性能多核種除去設備】 (実績・予定) ・処理運転 現場作業	処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)																																		処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止																																			
		【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (A・B系統) (予定) ・定期点検のため停止 (A系統 12/2~12月下旬, B系統 11/19~12/12, C系統 10/15~11/20) 現場作業	A系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)							B系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)							C系 処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)							定期点検のため処理停止													定期点検のため処理停止 ※処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止 ※9/14に使用前検査(除去性能確認)を受検, 使用前検査終了証を受領した2017年10月16日よりホット試験から本格運転へ移行 (運転状態・除去性能はホット試験中と変わらず) 2017年10月12日付 増設多核種除去設備使用前検査終了証受領 (原規規発第1710127号)																																			
		【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転 現場作業	処理運転																																		サブドレン汲み上げ、運用開始(2015.9.3~) 排水開始(2015.9.14~)																																			
		【5/6号機サブドレンの復旧】 (実績) サブドレン設備復旧方針検討 (予定) サブドレン設備復旧方針検討 検討・設計	サブドレン設備復旧方法検討							検討・設計工程追加																																																														
		【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転 現場作業	処理運転																																		2017年7月28日 除染装置関連設備撤去の実実施計画変更認可(原規規発第1707283号) 2017年9月28日 第三セシウム吸着装置設置の実実施計画変更認可(原規規発第1709285号) 第三セシウム吸着装置設置コールド試験完了(H30, 7月) 2019年1月28日 第三セシウム吸着装置使用前検査修了証受領(原規規発第1901286号) 2019年7月12日運用開始																																			
		(実績・予定) ・未凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全域展開完了 現場作業	維持管理運転(北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)																																		2016年3月30日 陸側遮水壁の閉合について実施計画変更認可(原規規発第1603303号) 2016年12月2日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(原規規発第1612024号) 2017年3月2日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(未凍結箇所4箇所の閉合: 原規規発第1703023号) 2017年8月15日 陸側遮水壁の一部閉合について実施計画変更認可(未凍結箇所1箇所の閉合: 原規規発第1708151号)																																			
		(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握 現場作業	モニタリング																																																																					



汚染水対策スケジュール (2/2)

分野名	括り	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	10月				11月				12月				1月		2月		備考
			27	3	10	17	24	1	8	15	下	上	中	下	前	後			
			設計検討																
中長期課題 汚染水対策分野	処理水受タンク増設	<p>(実績・予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加設置検討(タンク配置) H4フランジタンクリプレース工事(堰構築) Bフランジタンクリプレース工事(タンク基礎新設、堰構築) H5フランジタンクリプレース工事(タンク基礎新設、堰構築) H6フランジタンクリプレース工事(地盤改良、タンク基礎新設、堰構築) H3フランジタンクリプレース工事(=タンク設置作業待ち) H5エリアタンク設置 H6(II)エリアタンク設置 G6フランジタンクリプレース工事 G6エリアタンク設置 G4南フランジタンクリプレース工事(タンク解体) Eフランジタンクリプレース工事(タンク解体準備) G1横置きタンクリプレース工事(タンク基礎新設) G1エリアタンク設置 	設計検討																
			現場作業																
			H4フランジタンクリプレース工事(堰構築)																
			Bフランジタンクリプレース工事(タンク基礎構築、堰構築)																
			H5フランジタンクリプレース工事(タンク基礎構築、堰構築)																
			H6フランジタンクリプレース工事(基礎構築、堰構築)																
			H3フランジタンクリプレース工事(堰構築)																
			H5エリアタンク設置																
			H6(II)エリアタンク設置 ▼(2,712m3)(2基)																
			G6フランジタンクリプレース(タンク基礎・堰構築)																
			G6エリアタンク設置																
			G4南フランジタンクリプレース工事(タンク解体)																
			Eフランジタンクリプレース工事(タンク解体準備)																
			G1横置きタンクリプレース工事(地盤改良、タンク基礎新設)																
G1エリアタンク設置 ▼(1,356m3)(1基) ▼(4,068m3)(3基) ▼(4,068m3)(3基) (5,424m3)(4基)▼																			
2.5m盤の地下水移送	(予定・実績) ・地下水移送(1-2号取水口間) (2-3号取水口間)(3-4号取水口間)	現場作業																	
		<p>1、2号機海側ヤードエリア(路盤舗装等) 1~4号機周辺フェーシング</p> <p>3号機タービン建屋屋根対策 ヤード整備工事</p>																	
津波対策	<p>○千島海溝津波対策 ・防潮堤設置 (実績・予定) 既設設備撤去・移設、造成嵩上げ、L型擁壁設置</p> <p>○3.11津波対策 ・建屋開口部閉止 (実績) 閉止箇所数 77箇所/122箇所(11月18日時点) (予定) 外部開口閉塞作業 継続実施</p> <p>○3.11津波対策 ・メガフロート移設 (実績) 船底マウンド造成約80%、バラスト水処理約60% 内部除染作業約50%(11月18日時点) (予定) 船底マウンド造成・バラスト水処理・内部除染 継続実施</p>	現場作業																	
		現場作業																	
		現場作業																	
<p>現場工程追加</p> <p>防潮堤設置</p> <p>【区分③】2、3R/B外部のハッチ等</p> <p>【区分④】1~3R/B等</p> <p>船底マウンド造成・バラスト水処理・内部除染</p>																			
<p>4号機海側：2017年10月完了</p> <p>3号機海側：~2018年7月12日完了</p> <p>1、2号機海側ヤード：2018年8月~2019年1月</p> <p>その他海側エリア：2019年3月~2020年3月</p> <p>3号T/B屋根対策ヤード整備：2018年11月~2019年7月</p>																			
<p>工事開始(2019年7月29日)</p> <p>L型擁壁の据え付け開始(2019年9月23日)</p> <p>防潮堤設置2020年度上期完了予定</p> <p>【区分①②】1~3T/B等2019年3月、全67箇所完了</p> <p>【区分③】2、3R/B外部のハッチ等 (2019年3月~2020年9月、9箇所/20箇所完了)</p> <p>【区分④】1~3R/B等 (2019年9月~2020年12月、1箇所/14箇所完了)</p> <p>【区分⑤】1~4Rw/B、4R/B、4T/B (2020年~2022年3月)</p> <p>船底マウンド造成開始(2019年5月20日)</p> <p>バラスト水処理開始(2019年5月28日)</p> <p>内部除染開始(2019年7月16日)</p>																			


水処理設備の運転状況, 運転計画
 (2019年11月29日~2019年12月12日)

2019年12月6日
 東京電力ホールディングス株式会社



多核種除去設備

	29(金)	30(土)	12/1(日)	2(月)	3(火)	4(水)	5(木)	6(金)	7(土)	8(日)	9(月)	10(火)	11(水)	12(木)
A	停止													
B				停止										
C	停止													

増設多核種除去設備

	29(金)	30(土)	12/1(日)	2(月)	3(火)	4(水)	5(木)	6(金)	7(土)	8(日)	9(月)	10(火)	11(水)	12(木)
A	停止													
B	停止													
C		停止												

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	29(金)	30(土)	12/1(日)	2(月)	3(火)	4(水)	5(木)	6(金)	7(土)	8(日)	9(月)	10(火)	11(水)	12(木)
SARRY	停止													
SARRY2								停止						
KURION	停止(滞留水の状況に応じて運転を計画, 実施)													

※ 現場状況を踏まえて運転するため, 計画を変更する場合がある。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について
(2019年11月29日～2019年12月5日)

2019年12月6日
東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位					タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位		
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス 主建屋	高温焼却炉 建屋	サイトバンカ 建屋
			ポンプエリア	南東エリア												
11月29日	-1351	-965	-1373	-2065	-1758	—	-1303	-1242	-1283	—	-1330	-1292	-1314	2878	351	—
11月30日	-1362	-981	-1370	-2233	-1797	—	-1312	-1260	-1279	—	-1329	-1291	-1323	2963	351	—
12月1日	-1339	-935	-1347	-2109	-1784	—	-1323	-1253	-1274	—	-1329	-1291	-1329	2924	351	—
12月2日	-1350	-907	-1424	-2040	-1763	—	-1295	-1245	-1270	—	-1329	-1290	-1335	2903	350	—
12月3日	-1362	-864	-1378	-2051	-1751	—	-1295	-1239	-1267	—	-1327	-1289	-1339	2887	351	—
12月4日	-1359	-848	-1345	-2222	-1746	—	-1297	-1234	-1266	—	-1327	-1289	-1342	2866	350	—
12月5日	-1340	-851	-1308	-2264	-1741	—	-1292	-1228	-1264	—	-1326	-1287	-1342	2843	349	—

備考欄

※ T.P.表記(単位:mm)

※ 5時時点の水位

※ 1号機タービン建屋の滞留水除去完了(2017年3月)

※ 1号機廃棄物処理建屋は水位計の測定下限値以下まで水位低下(2018年7月)

※ サイトバンカ建屋水位は、流入量調査のため一時的に水位計の測定下限値以下まで水位低下(2019年4月16日～)

※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)

※ 各建屋最下階床面高さ 1号機原子炉建屋 T.P.-2666、2号機及び3号機及び4号機原子炉建屋 T.P.-4796
 1号機タービン建屋 T.P.443、2号機タービン建屋 T.P.-1752、3号機タービン建屋 T.P.-1737、4号機タービン建屋 T.P.-1739
 1号機廃棄物処理建屋 T.P.-36、2号機及び3号機及び4号機廃棄物処理建屋 T.P.-1736
 プロセス主建屋 T.P.-2736、高温焼却炉建屋 T.P.-2236

G6エリア-D9タンク天板損傷について

2019.12.06

TEPCO

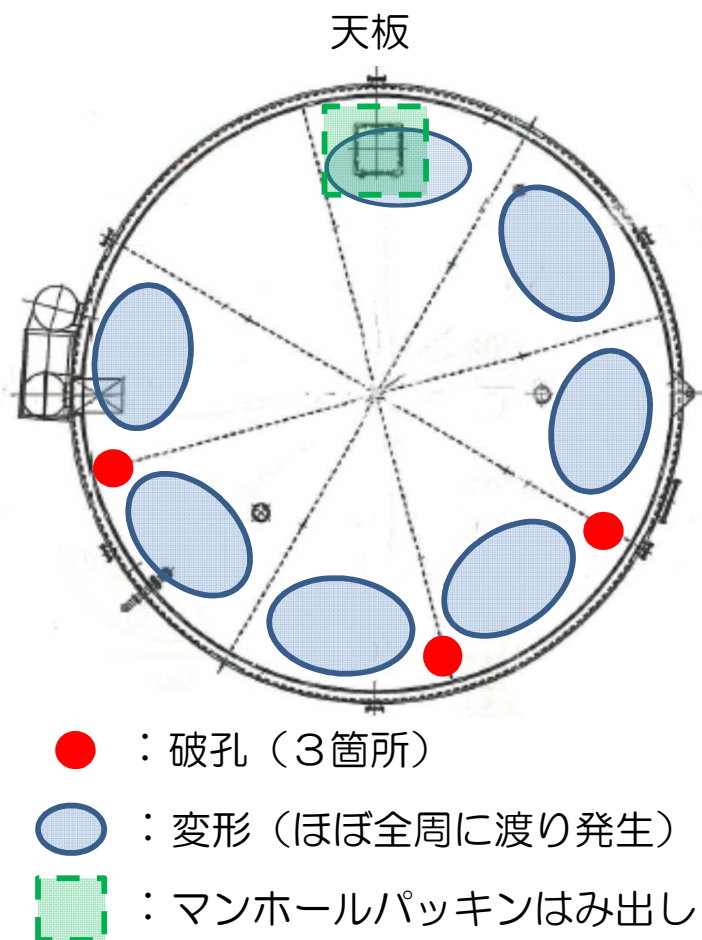
東京電力ホールディングス株式会社

【書画資料】本資料には東京電力ホールディングス（株）または同社以外のノウハウ等が含まれている可能性がありますので転載はご遠慮願います。また未確定な情報や暫定値などが含まれており、内容が変更される可能性がありますので取扱いにご注意下さい。

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

1. G6-D9タンク天板損傷状況

- 変形および破孔は、何れもタンクの内側方向に発生 ←**負圧の作用**
- 下図、天板中心から8方位に走る点線は天板補強板であり、変形は補強板の間（最大深さ60mm）、破孔は補強板の終端部に発生
- マンホールパッキンは、蝶ネジの間隔が広い箇所が外側にはみ出していた ←**正圧の作用**



①破孔 (代表)



②変形 (代表) : 最大深さ60mm

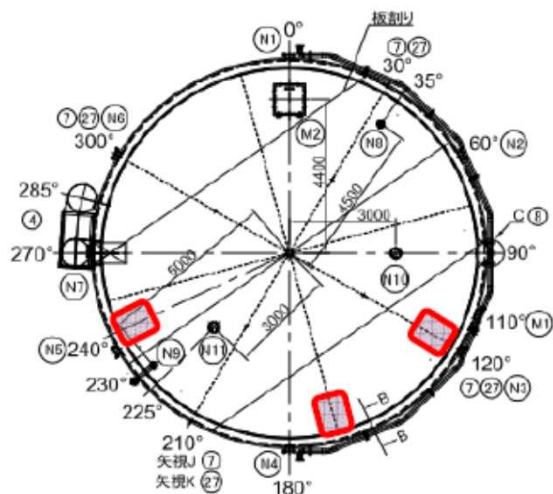


③マンホールパッキンはみ出し



2. G6-D9タンク天板補修について

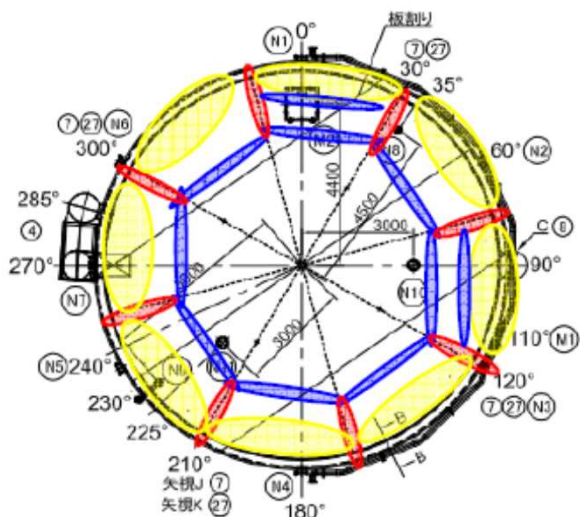
・破孔部（3箇所）



破孔部（赤色）の補修手順

- ①：破孔箇所を形状に合わせて切欠き
- ↓
- ②：天板下面に裏当て金を取付け
- ↓
- ③：形状に合わせた新規材料を溶接にて取付け

・天板変形（天板パネルの凹みの矯正）



天板変形の補修手順

- ①（赤色）：天板パネル下面に取付けられている天板補強材（既設）の矯正
天板パネル上面の天板補強材位置に仮設の当て板・吊環を取付け、天板補強材（既設）をチェーンブロック等にて引上げて修正する。
- ②（黄色）：天板パネルの凹み矯正
天板パネル上面に天板補強材と交差するように仮設の当て板を取付け、凹み付近に吊環を取付けチェーンブロック等にて引上げて修正する。その後、天板パネル下面にフラットバー（新規・青色／円弧形状）を取付ける。

- ・マンホールパッキンのはみ出し
マンホール部の外観点検および新規パッキンへの交換を実施

3. G6-D9タンクの使用前検査について

- 当該タンクの損傷について
 - ・天板以外の損傷は確認されなかった。
 - ・二次元解析及び三次元解析結果および胴板の目視検査にて変形や皺等が観察されていないことから、胴板は健全であると評価された。
 - ・天板補修前の寸法検査にて、タンク内径・タンク高さは全て許容値内にあり、問題は確認されなかった。

- 天板部補修における使用前検査との関わり
 - 実施計画上、汚染水処理設備等の貯留設備（タンク等）で設計要件を求められる設備であるが、タンク天板は、実施計画の設計要件対象外である。なお、天板部の使用前検査で関わる箇所は、入口管台および外観検査となるが、下記のとおり対象外と判断する。
 - 入口管台（天板に設置） ⇒ 受払いタンクのみでD9タンクは設置されておらず対象外
 - 溶接型タンク概略図 ⇒ 補修による天板部形状に変更は生じないため対象外

- 当該タンクの使用前検査状況
 - 令和元年6月26日～27日に以下の項目について使用前検査を受検済み
 - （記録確認） 材料検査・寸法検査・耐圧／漏えい検査・耐圧代替検査
 - （立会検査） 外観検査・組立／据付検査
 - 後日、最終検査として性能検査（総合貯留容量確認検査）を行う。実施計画に定める基数および公称容量を満足することを立会又は申請者の品質記録にて確認する。

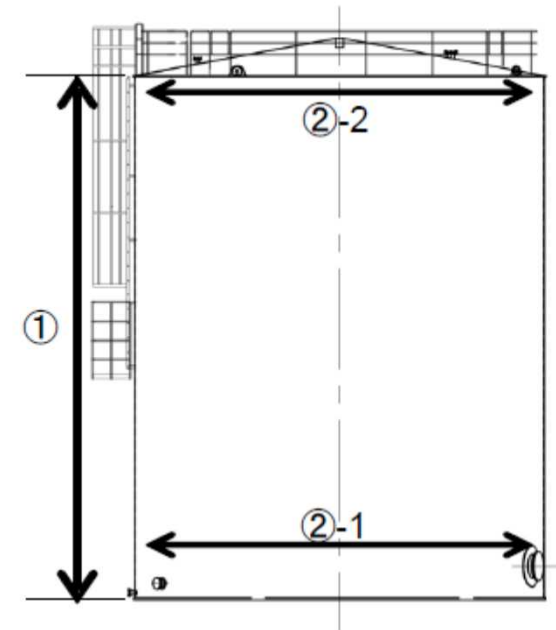
- 当該タンクにおける使用前再検査の有無について
 - ・メーカーで行った解析結果において、タンクの構造強度に係わる胴板について影響が無く、天板のみの補修であることから使用前の再検査は不要と考える。
 - 念のため、天板補修後、タンク内径とタンク高さを計測し変形のないこと、許容寸法・公称容量が満足していることを社内自主検査にて確認する。

4. 天板補修前寸法検査結果

1. 天板補修前寸法検査結果

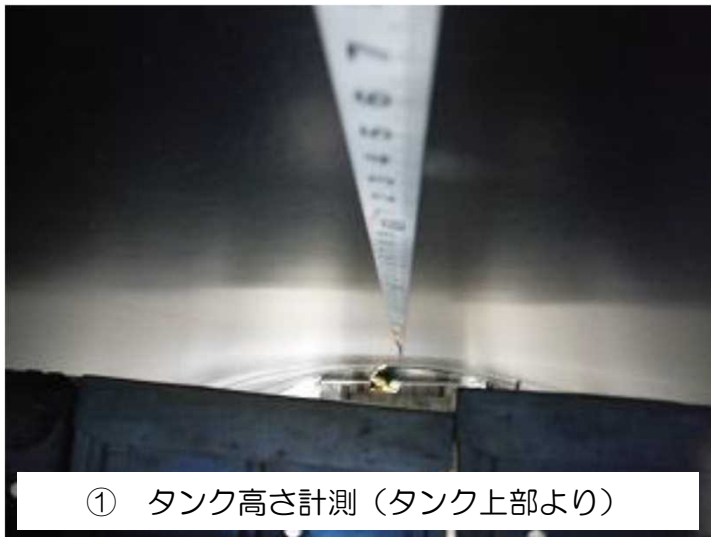
タンク内径とタンク高さを測定した結果、全て寸法公差内にあり、胴板に問題のないことを確認した。

検査箇所	測定位置	図面寸法 [mm]	許容寸法 [mm]	測定方位 [°]	実測値 [mm]	最大値 [mm]	最小値 [mm]	差 [mm] 比 [%]	結果
タンク高さ	① ※3	14715	14705~ 14765	0	14717				良
				90	14720				
				180	14720				
				270	14720				
タンク内径	②-1 (1WL ※2)	φ 11000	1%以下 ※1	0-180	10994	10999	10991	8	良
				45-225	10995			0.08	
				90-270	10999				
				135-315※4	10991				
	②-2 (胴上端)	φ 11000	1%以下 ※1	0-180	10999	10999	10980	19	良
				45-225	10996			0.18	
				90-270	10980				
				135-315	10996				



- ※1 タンクの軸に垂直な同一断面における最大内径と最小内径の差は当該断面の呼び内径の1%以下である。
- ※2 タンク内径の計測位置として、1WLは1mWATER LINEを意味する。
- ※3 タンク底板上面からトップアングル上面までの高さとする。
- ※4 足場干渉のため、127.5-307.5で実施。

2. 計測状況



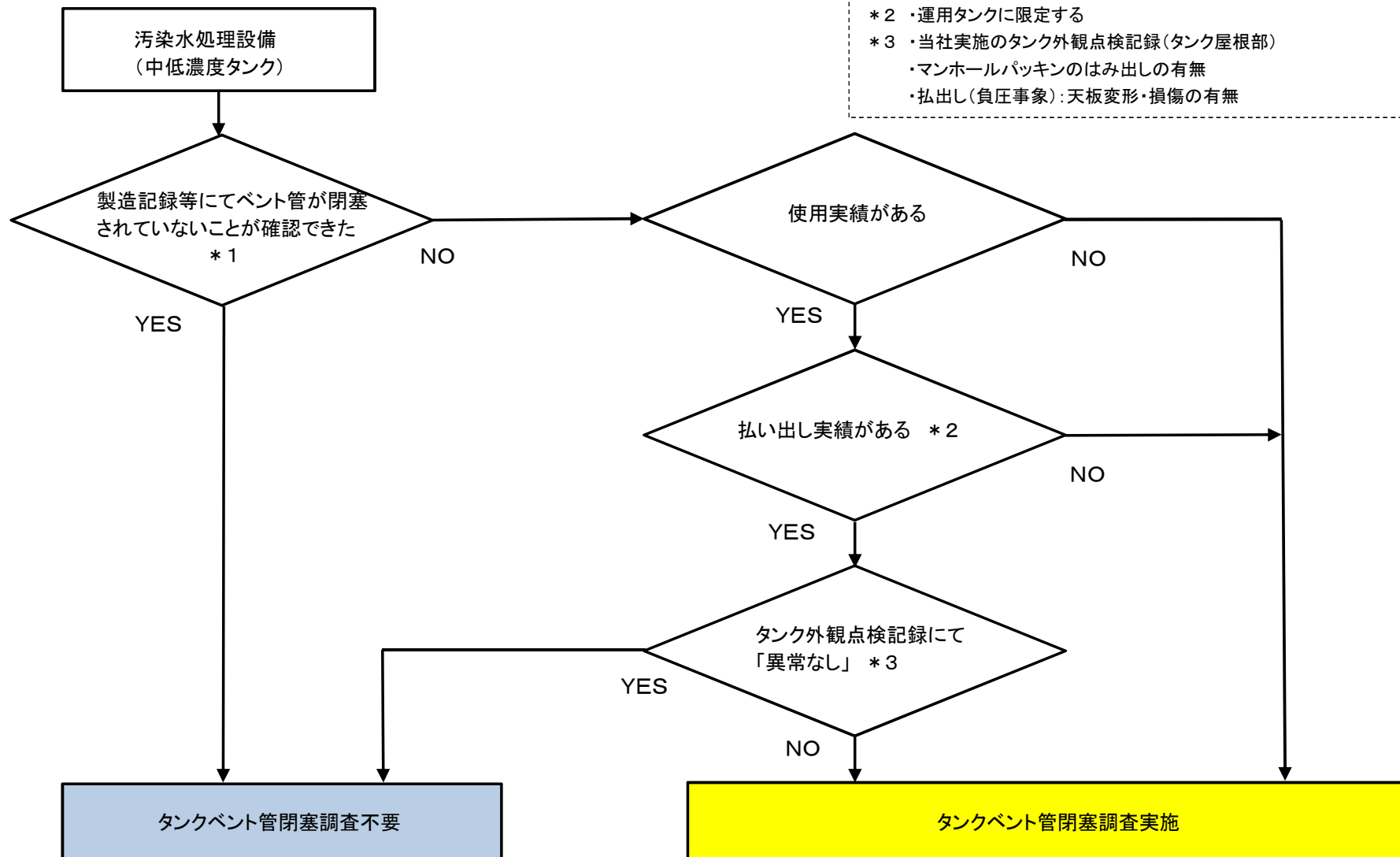
① タンク高さ計測 (タンク上部より)



② タンク内径計測

5. 全エリアタンクベント管健全性確認手法

- * 1 ・製造記録にベント管取付時、内部確認の記載あるもの
・養生を取り外さないとベント管接続が不可であることが明確なもの
・ベント管がタンクに直付け(溶接接続)されているもの等
・ベント弁が設置されているものは、ベント弁点検記録により内部確認の記載があるもの
- * 2 ・運用タンクに限定する
- * 3 ・当社実施のタンク外観点検記録(タンク屋根部)
・マンホールパッキンのはみ出しの有無
・払出し(負圧事象):天板変形・損傷の有無



6. 全エリア（既設分）タンクベント管健全性確認結果

元請	エリア	基数	調査基数	備考
東芝	J5	35	0	ベント弁点検 記録有り
	J4	35	0	
	K1南	10	0	
	G1南	8	0	
	G6	37	37	内部確認記録無し (調査対象)
	G6-D9	1	1	内部確認記録無し (調査対象)
三菱重工業	G7	10	0	養生により接続不可
	D	41	0	
	K2	28	0	
	K3	12	0	
	K4	35	0	
	G1南	15	0	
	H4南	51	0	
IHI プラント	G3	69	0	溶接接続
	J2	42	42	内部確認記録無し (調査対象)
	J3	22	22	
	H2	44	0	内部確認記録有り
	H8	16	0	溶接接続
	B	37	0	内部確認記録有り
	B南	7	0	内部確認記録有り

元請	エリア	基数	調査基数	備考	
日立GE	H1	63	0	内部確認記録有り	
	H1東	24	0	内部確認記録有り	
安藤・間	J1	100	0	養生により接続不可	
	J6	38	0		
	K1北	12	0		
	J7	42	0		
	J8	9	0		
	J9	12	0		
	H3	10	0		
	H5	32	0		
JFE-E	H4北	35	35	内部確認記録無し (調査対象)	
	清水建設	H9	5	0	養生により接続不可
		H9西	7	0	
大成建設	ALPS1 サンプルタンク	4	0	養生により接続不可	
東芝	ALPS2 サンプルタンク	3	3	内部確認記録無し (調査対象)	
	ALPS3 サンプルタンク	3	3		
合計		989	143	23基済み(12/4)	

7. 全エリア（新設分）タンクベント管健全性確認結果

元請	エリア	基数	調査基数	備考
安藤・間	G1	66	66	使用実績が無い
	G4南	26	26	
合計		92	92※	

※12月以降、使用前検査を受検するタンクについては異物混入防止チェックシートの運用を開始。
12月以前に使用前検査を受験済みのタンクについては、「養生を取り外さないとベント管接続が不可であることが明確なもの」との位置づけにより、ベント管内部の調査を不要としている（規制庁検査課 了解済み）

配管用異物混入防止チェックシート										
発電所名							(株)○○○			
工事件名							承認	審査	作成	
機器一貫番号	機器名									
開口部説明 (機器、ラインNo等)	開口部の 措置	開口部内部確認			開口部養生確認			備考		
		月 日	結果	確認者	月 日	結果	確認者			
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					
		/			/					

【確認項目、注意事項】

①フランジ締付前に開口部の内部に異常がないか確認すること。

②最終の状態が開口部となる箇所は、養生等による異物混入防止の措置を行い、記録すること。

③開口部は、照明器具を使用して内部の確認を行うこと。

④ウェス、工具、テープ、番線等の残留はないか。

⑤内部に異常はないか確認すること。

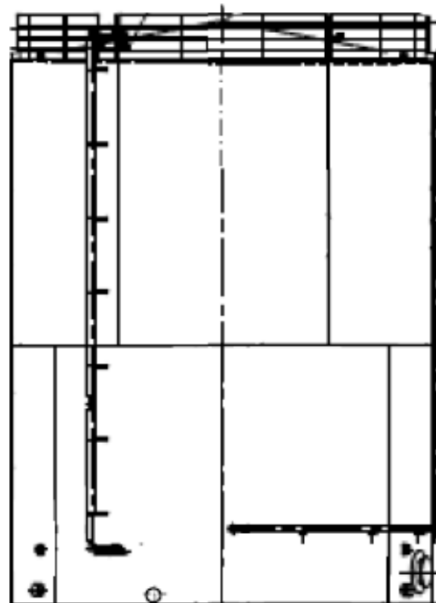
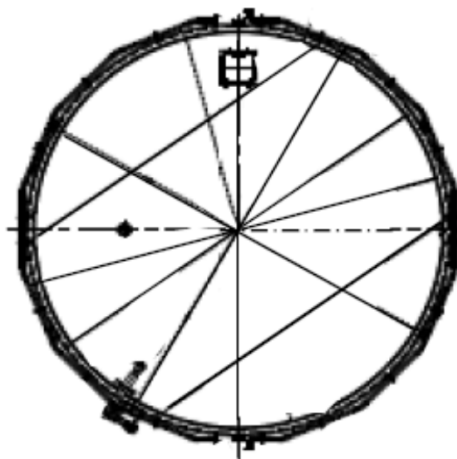
⑥確認の結果、問題なければ ○を記入すること。

8. 今後のスケジュール

内容	10月				11月				12月					1月～3月
	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	
主要工程				▼ H6(Ⅱ)-C2~4インサービス	▼ G6-C5~C10インサービス									▼ 1月31日 G6最終検査
側板の健全性評価 (D9タンク)	モデル解析						寸法計測				寸法計測			※ 側板の健全性は解析で確認済み。今後寸法検査を行い、合格すれば側板は再使用する。
原因究明・ 再発防止策検討 (工場製造時)	原因深掘り					再発防止策立案								
再発防止策検討 (既設置タンク)	G6エリア全38基ベント管閉塞調査								設計・調達					2月中旬～3月末 ベント管閉塞調査
天板修理	要領検討					D9⇒D5 水移送								
						足場組立								変形・破孔部修理

【参考】 G6エリアタンク設備仕様

溶接型タンク概略図 (G6)



G6エリアタンク設備仕様

(単位：mm)

名称	
タンク容量	1,330m ³
内径	11,000
胴板厚さ	12
底板厚さ	12
高さ	14,715
管台厚さ (100A)	8.6
管台厚さ (200A)	12.7
管台厚さ (650A)	16.0
入口配管	100A相当
連結管	200A相当
連結弁	200A相当

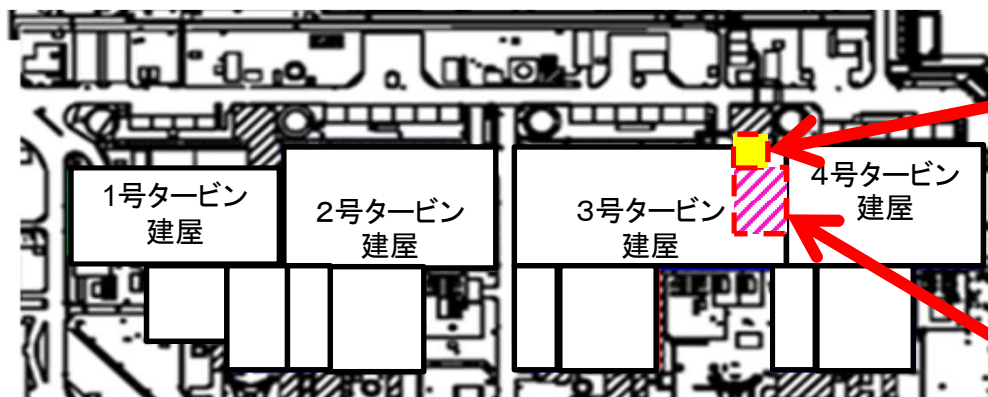
福島第一原子力発電所 3号機タービン建屋滞留水 移送装置設置作業におけるモルタル流入について

2019年12月6日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

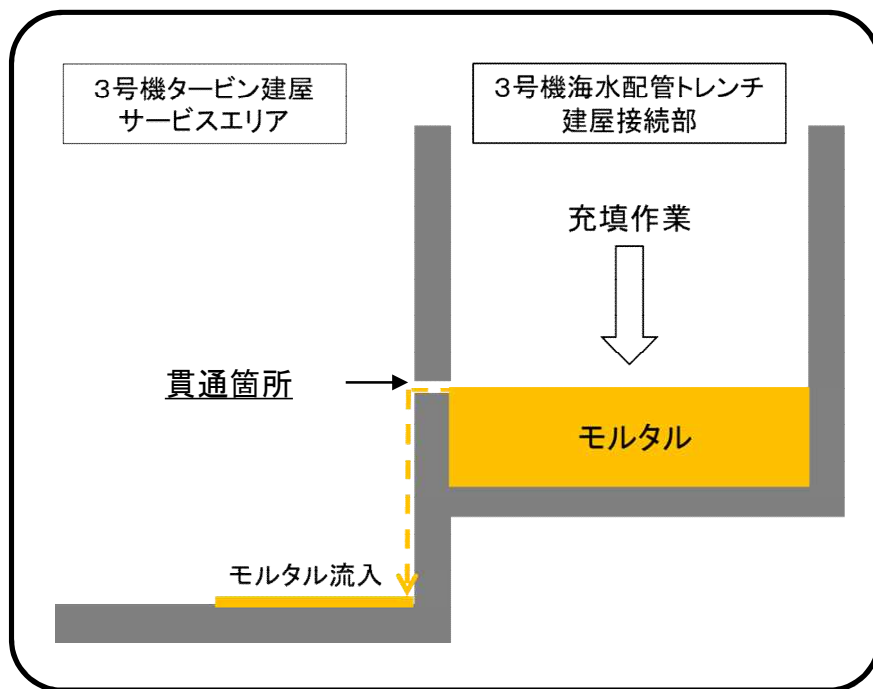
- 3号機海水配管トレンチについては、震災以降、建屋内滞留水が流入していたことから、滞留水の移送、充填閉塞工事を実施し、タービン建屋接続部を除き、2016年3月に工事が完了しております。建屋接続部については、建屋滞留水の水位低下に合わせて充填することとしておりました。
- 建屋接続部については、2019年11月5日よりモルタルの充填作業を実施しておりますが、12月3日に充填箇所隣接している3号機タービン建屋地下1階にあるサービスエリアにモルタルが流入していることを協力企業作業員が確認しました。
- 当該エリアについては、滞留水を移送するためのポンプを新たに設置することを目的に10月1日より柔構造アームを用いて、既設ポンプの撤去作業を進めており、12月4日に作業の影響有無について調査を実施したところ、既設ポンプが収められているピット内にもモルタルが流れこんでいることを確認しました。
- 今後、詳細を調査して参ります。

モルタル流入イメージ



3号機海水配管トレンチ建屋接続部閉塞作業箇所

モルタル流入が発生した3号機タービン建屋サービスエリア



12月2日
充填材 (モルタル)
2.4 m³ 充填

※モルタルの一部流入

モルタル流入箇所 (断面)

タンク再利用計画について

2019.12.6

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. Sr処理水タンクからALPS処理水タンクへの用途変更について

- 再利用計画について
 - 134万m³のALPS処理水タンク容量確保（2020年12月末）に向け，Sr処理水タンクからALPS処理水タンクへ用途変更（以下：再利用タンク）を実施する。
 - 用途変更にあたり，タンクを底部まで洗浄した後にALPS処理水を受け入れる。
 - 用途変更は，2020年2月から随時実施する計画。（93基。約9.7万m³。）
- 用途変更に伴う実施計画への影響について
 - 実施計画には下記の通り記載があり，実施計画への影響は無いと考えている。

【Ⅱ-2-5-添12- 3一部抜粋】

タンクの運用状況に応じてSr 処理水貯槽に多核種除去設備，増設多核種除去設備，高性能多核種除去設備による処理済水（37kBq/cm³ 未満）を貯留する。

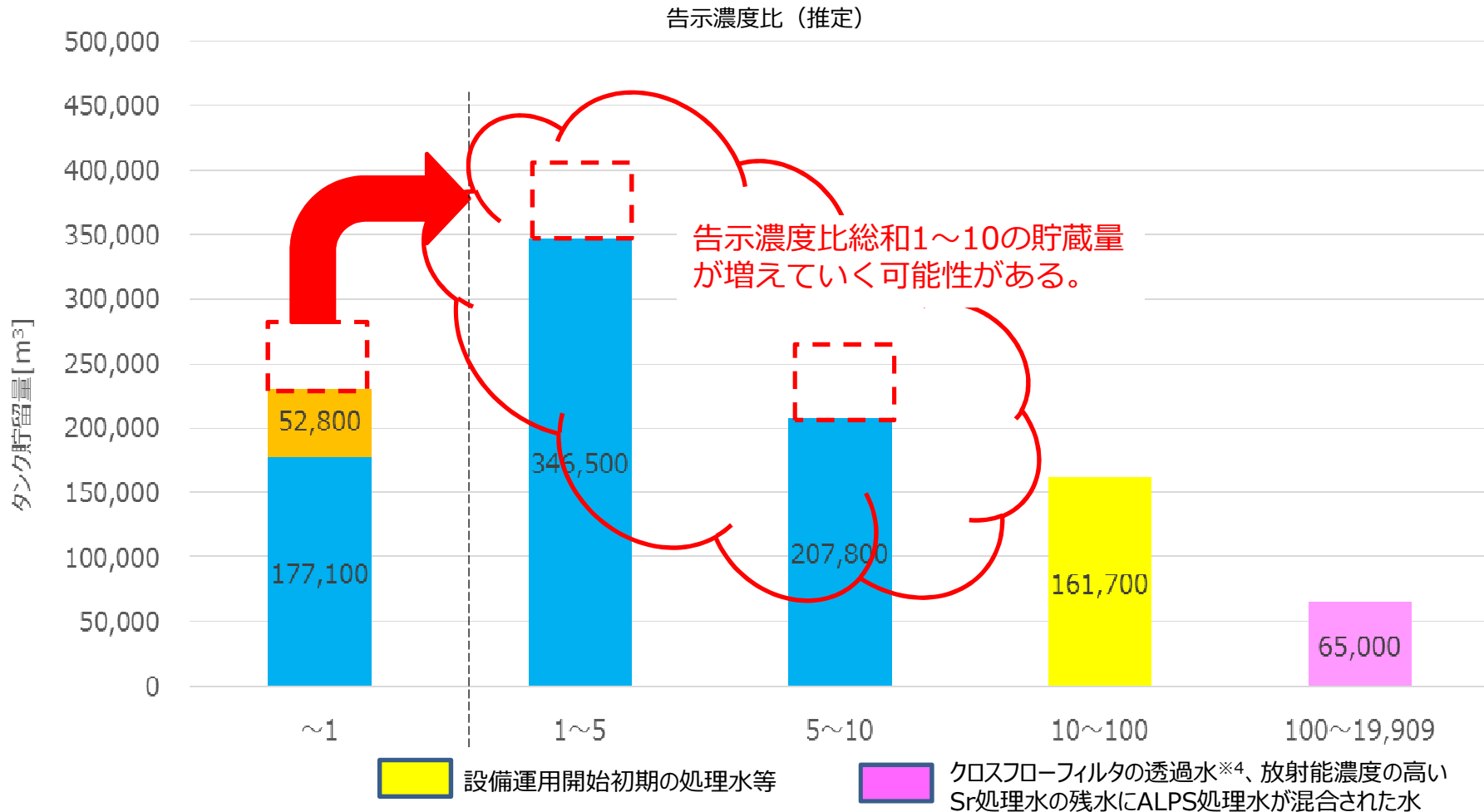
2020年12月末時点の汚染水タンクの計画

※：2020年12月末時点での基数・容量

現状の貯留水	用途・基数		2020年末貯留水	2020年末貯蔵容量
	用途	基数		
Sr 処理水	運用タンク	24基	Sr 処理水	約2.5万m ³
	再利用タンク	93基	ALPS 処理水	約9.7万m ³
ALPS 処理水	ALPS処理水タンク	920基※	ALPS 処理水	約123.1万m ³ ※
	ALPSサンプルタンク	10基	ALPS 処理水	約1.2万m ³
合計		1047基※		約136.5万m ³

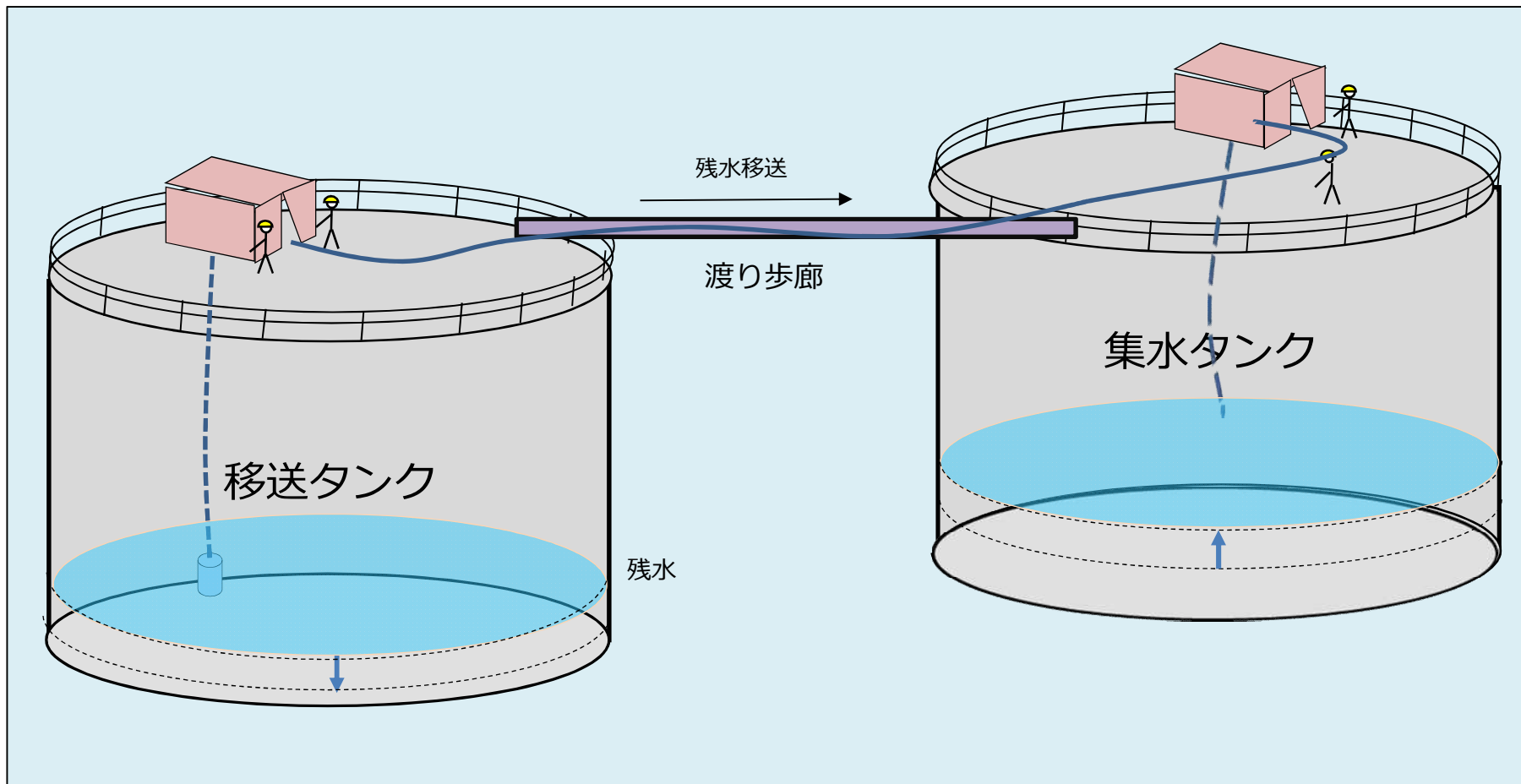
2. 再利用タンクの告示濃度比総和について

- タンクを底部まで洗浄した後にALPS処理水を受け入れるが、告示濃度比総和 1 を超える可能性がある。
- 現在は、告示濃度比総和 1 未満を可能な限り満足するようALPSを運用しており、当社「処理水ポータルサイト」では、告示濃度比総和 1 未満の貯蔵量が増えている状況。
- 2020年1月のタンクインサービス後にサンプリングし、告示濃度比総和結果を確認していく。



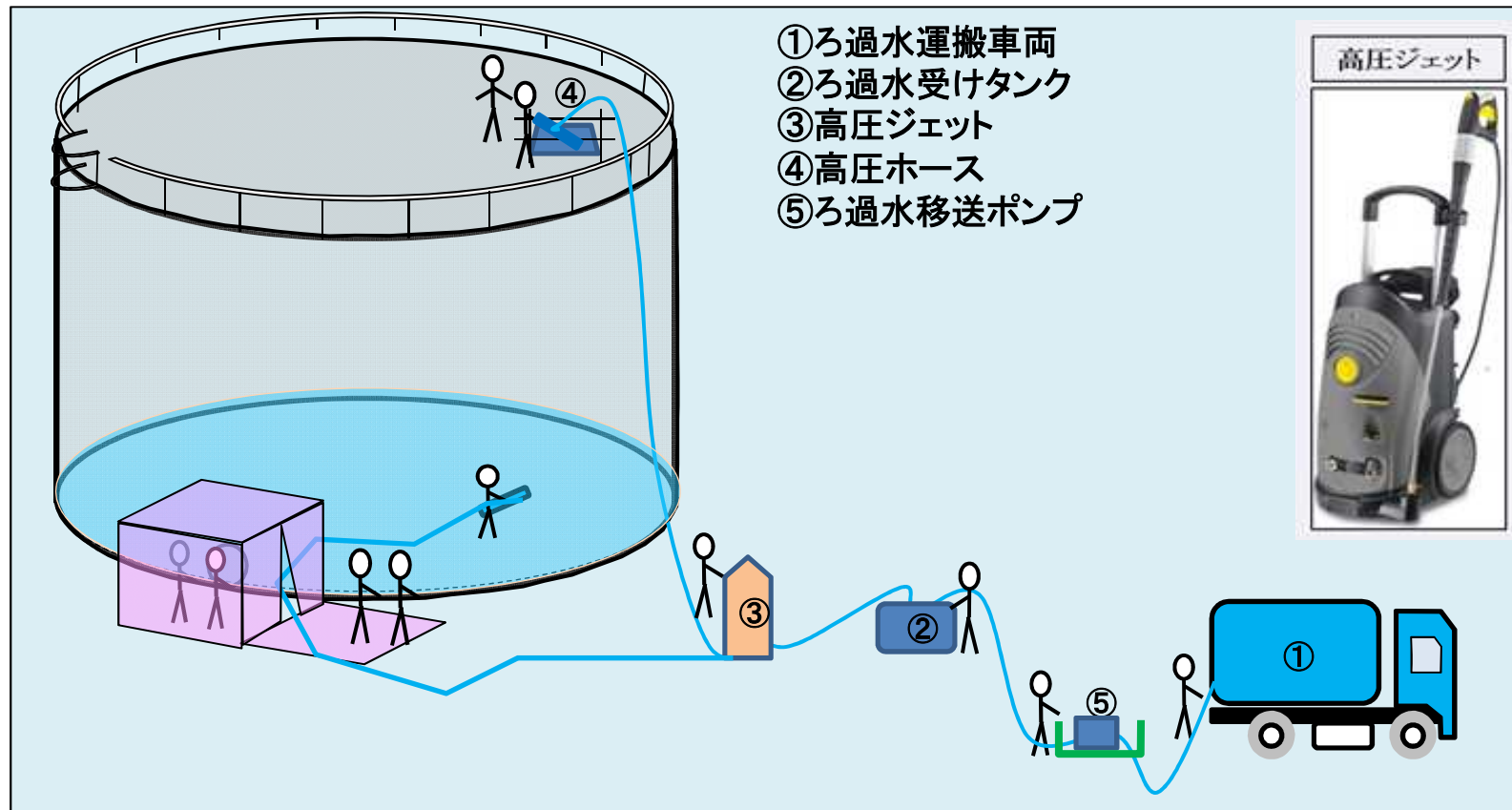
【参考】タンク再利用方法（タンク残水移送） 1 / 5

- ALPS処理を完了した再利用タンクについては、残水を水中ポンプ極底である約30mまで集水タンクへ移送する。
- 集水タンクについては再度ALPS処理後、残水は約30mまで他エリアタンクへ移送する。



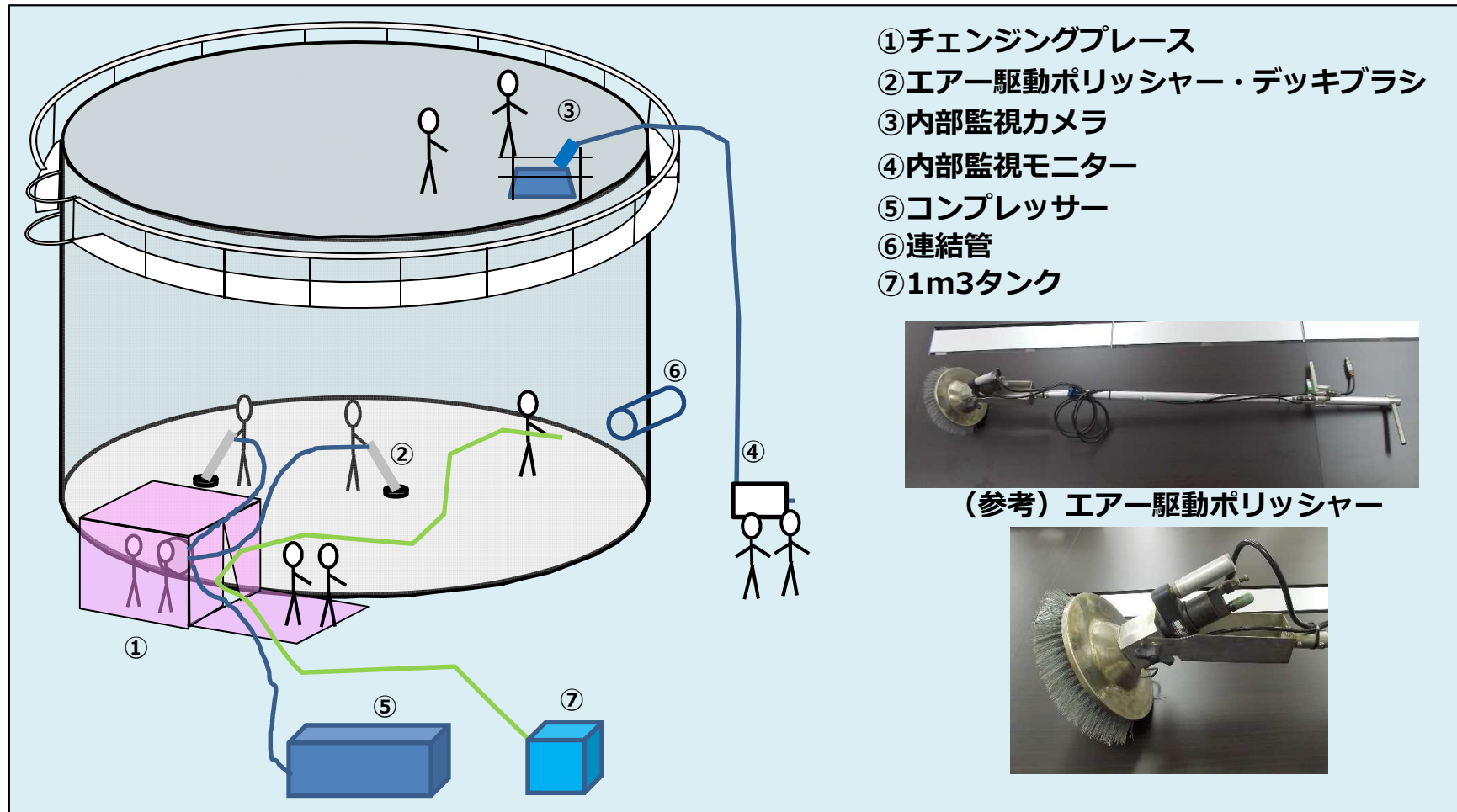
【参考】タンク再利用方法（残水処理：散水作業） 2 / 5

- タンク内面の洗浄は事前に空間線量の測定を実施し、作業可能である事を確認してから洗浄作業を開始する。
- 天板上マンホールから高圧ジェット（高圧洗浄機）を使用してタンク内壁面を洗浄する。
- 天板上からの洗浄後、タンク側面マンホールを開放し、高圧洗浄機を使用してタンク内壁面を洗浄する。



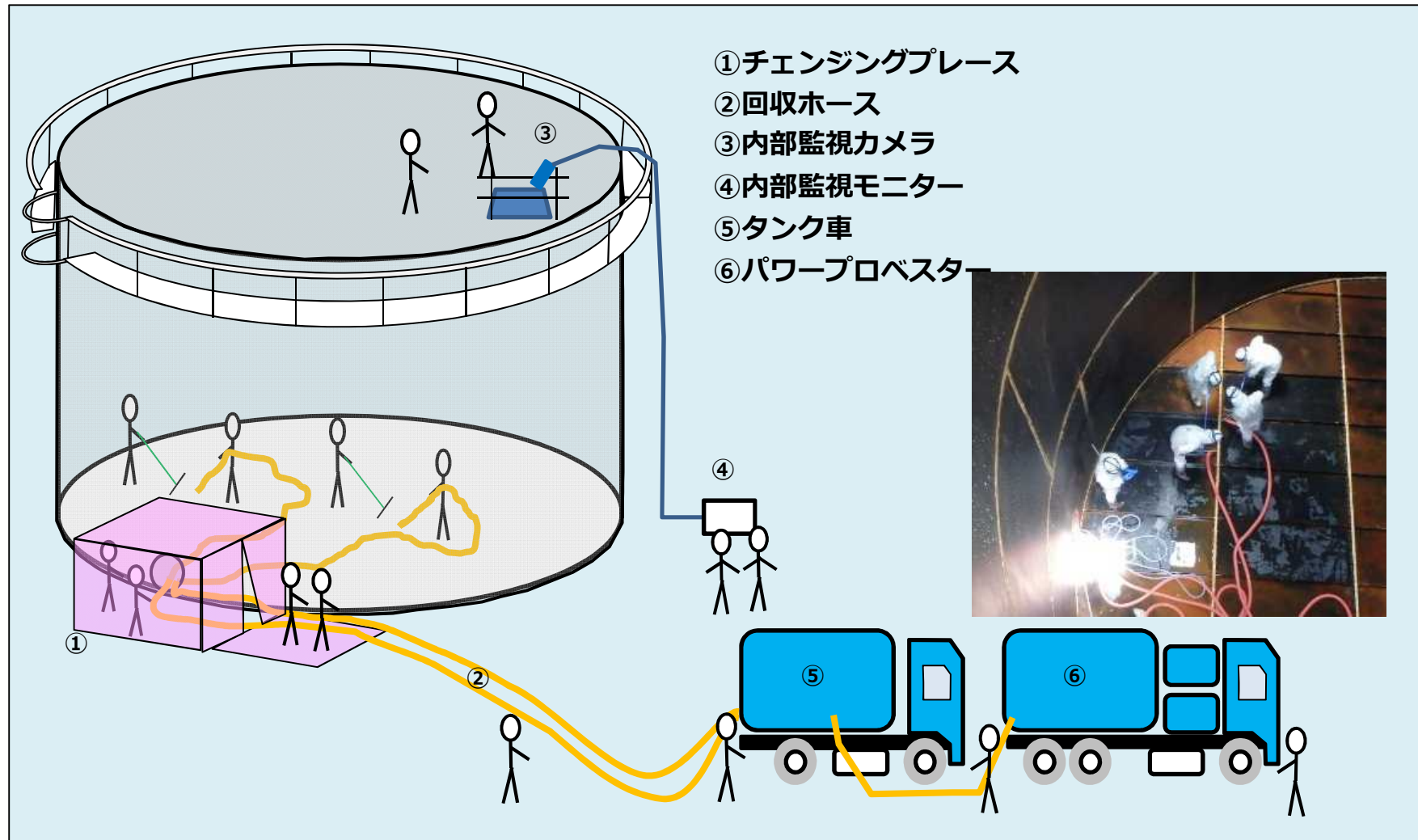
【参考】タンク再利用方法（残水処理：タンク内清掃） 3 / 5 **TEPCO**

- タンク内に入域し、エアードライブポリッシャー（高圧洗浄機）またはデッキブラシを用いて、底板のブラッシングを行う。
※タンク内の線量によっては底部残水回収装置を用いて作業する。
- 連結管については連結弁を「開」し、タンク内部から、ろ過水にて洗浄する。



【参考】タンク再利用方法（残水処理：残水回収） 4 / 5

- タンク内に入域し、残水をパワープロベスター吸引によりタンク車に移送する。
- 回収した残水は、他タンクエリアへ排水する。



- 内面清掃、残水処理を実施した再利用タンクへALPS処理水を供給する。

